

2017年3月31日

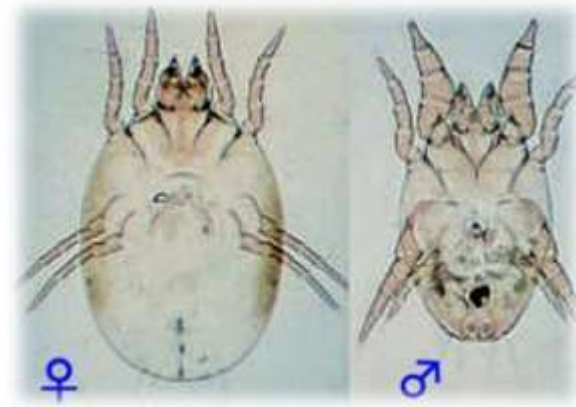
楠及び楠畳床の防ダニ試験に関する報告書

北九州市立大学 森田研究室

【室内塵性ダニ】

：コナヒョウヒダニ
(実験室で累代飼育)

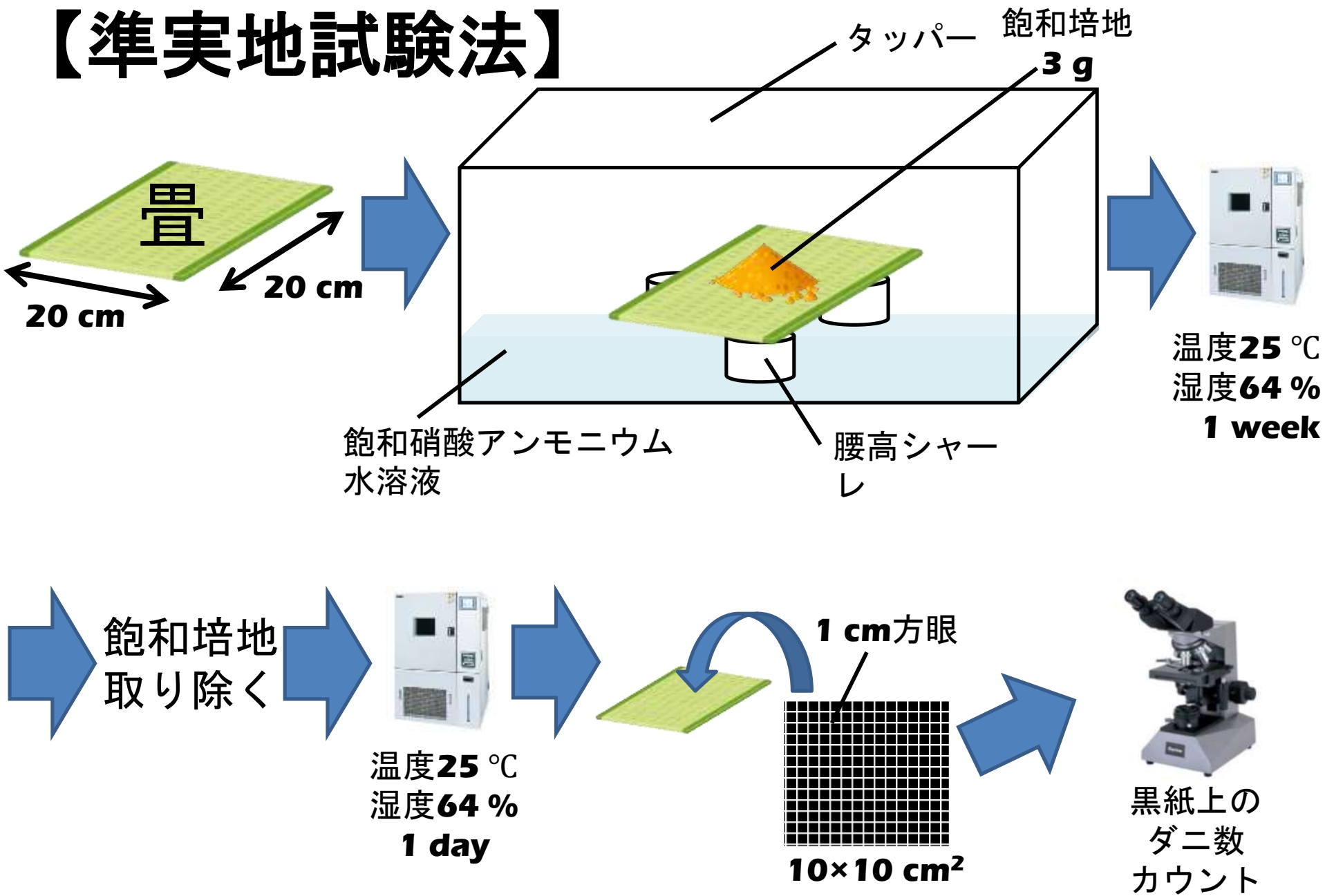
※アース製薬（株）より分譲



↑
0.2~
0.3
mm
↓

- 学名：*Dermatophagoides farinae*
- 一般的に室内環境に存在
- 小麦粉やパン粉、かつお節などの保存食品に潜んでいる
- 畳やカーペット、じゅうたんなどに発生
- アレルギー性皮膚炎などといった様々なアレルギー疾患を引き起こす

【準実地試験法】



【サンプル】

① 檜製畳表

② 楠製畳表

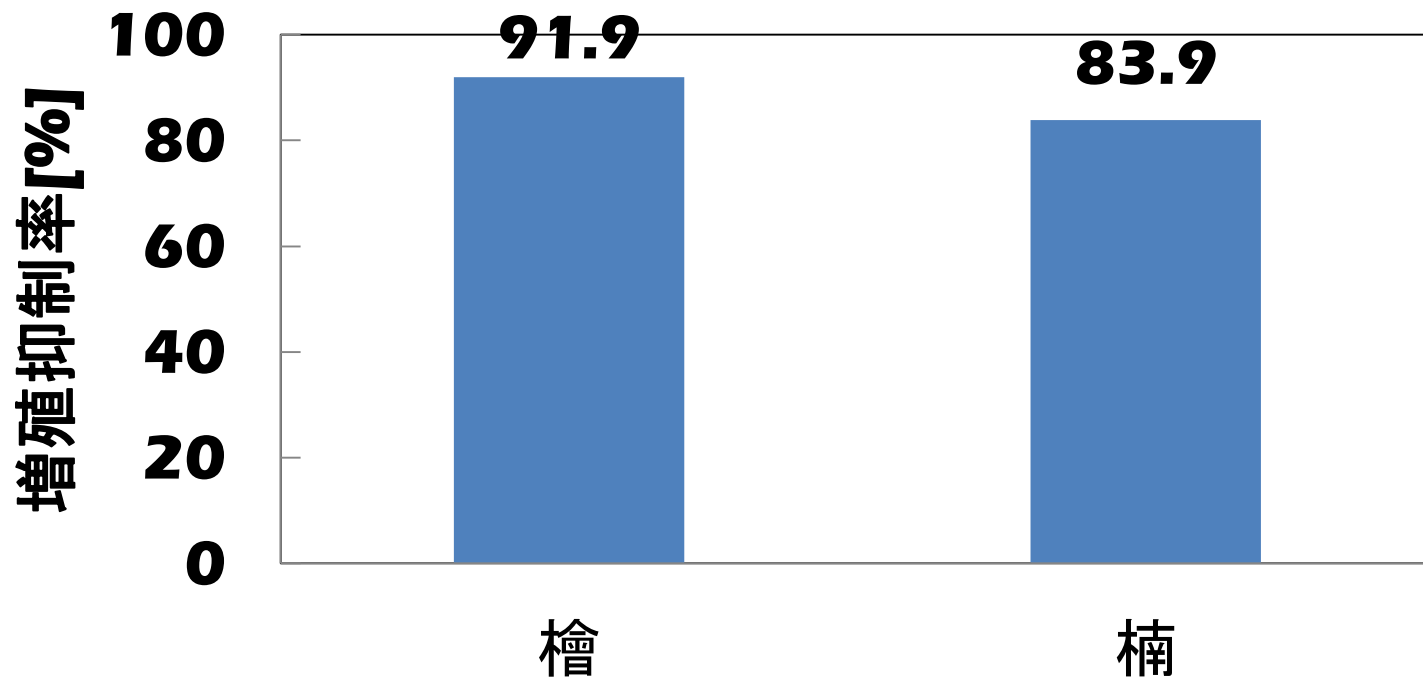
③ コントロール

(同量の飽和培地中に存在する
ダニ数)

増殖抑制率[%]=

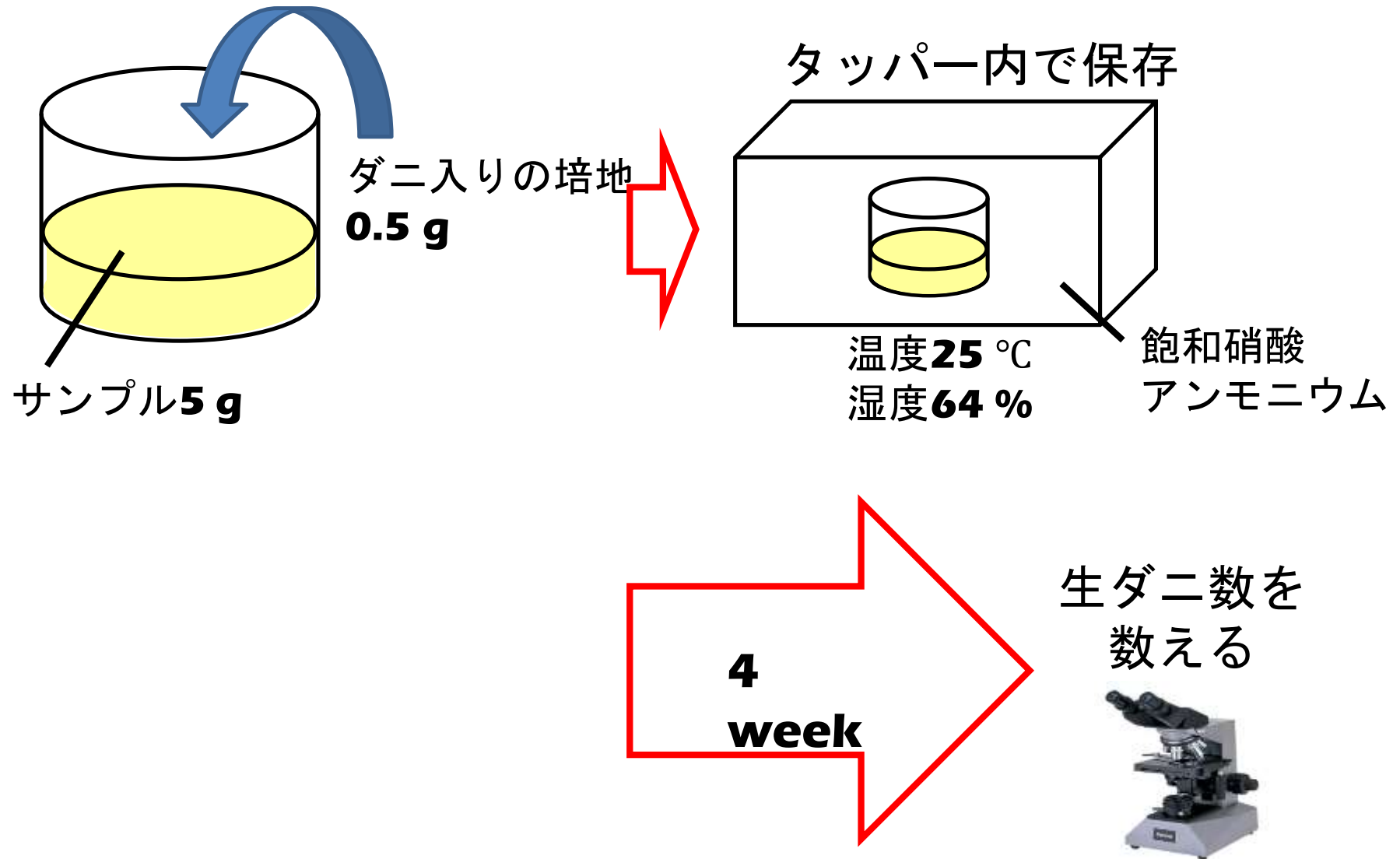
$$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{対照区が生ダニ数[匹]} \\ - \text{サンプル処理区が生ダニ数[匹]} \end{array} \right)}{\text{対照区が生ダニ数[匹]}} \times 100 [\%]$$

【準実地試験法】



- ・ 檜製畳表では、**4 week**の接触で**91.9 %**、楠製畳表では**83.9 %**非常に高い増殖抑制効果を示した

【培地混入法】



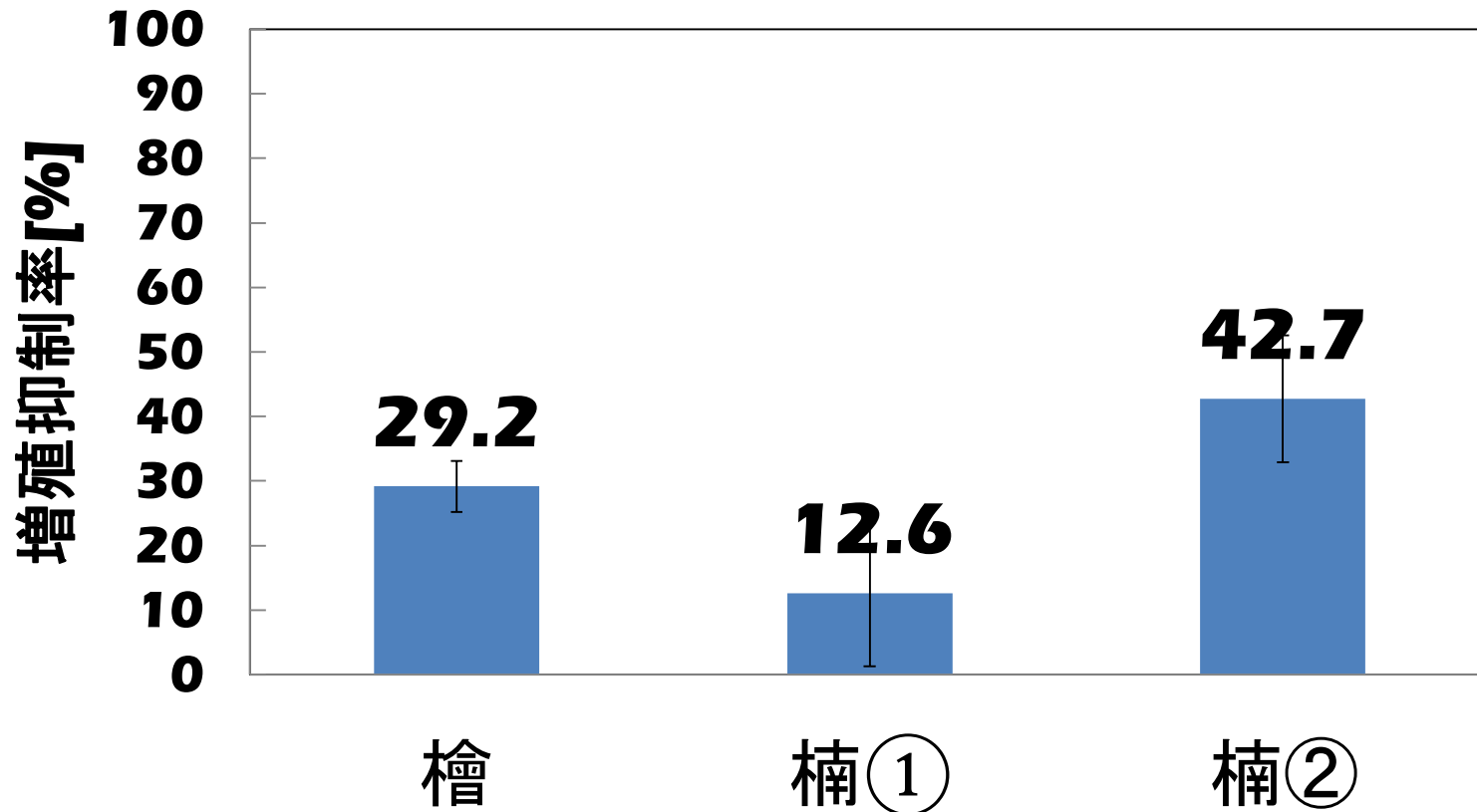
【サンプル】

- ① 檜チップ
- ② 楠チップ(1)
- ③ 楠チップ(2)
- ④ コントロール(無処理区)

増殖抑制率[%]=

$$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{対照区が生ダニ数[匹]} \\ - \text{サンプル処理区が生ダニ数[匹]} \end{array} \right)}{\text{対照区が生ダニ数[匹]}} \times 100 [\%]$$

実験結果②



- ・ ダニ防除効果の判定基準値(50%)に対して、
いずれのサンプルにおいても50%未満と効果は低かった。

【準実地試験法】

- ・ 檜製畳表では、**4 week**の接触で**91.9 %**、楠製畳表では**83.9 %** 非常に高い増殖抑制効果を示した

【培地混入法】

- ・ ダニ防除効果の判定基準値(**50 %**)に対して、いずれのサンプルにおいても**50 %未満**と効果は低かった
- ・ 準実地試験法での結果と比較し、効果が減少したことは以下の**2点**が考えられる。
 - 1) 畳表のい草と畳床の木材との相乗効果**
 - 2) 接触時間が1週間から4週間に延長されることの影響**